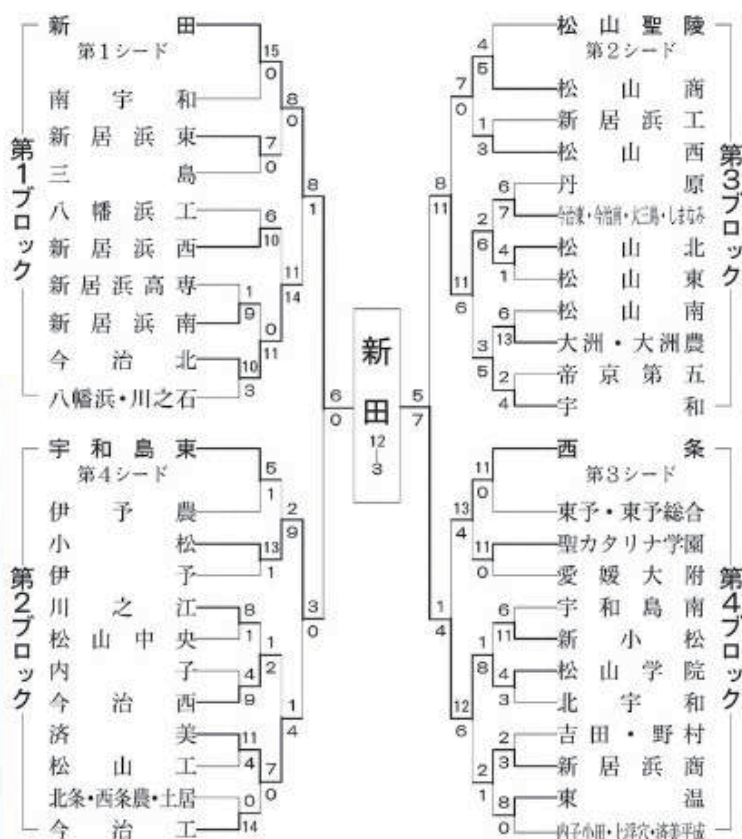


全国高校野球選手権愛媛大会の戦譜



2年ぶり本塁打に沸く 連合チーム存在感増す

愛媛大会を振り返って

今大会で話題を呼んだのは、2年ぶりの本塁打復活だ。低反入2年目だった昨年は、75年ぶりに大会

学園など優勝候補のともいえる。今年も歴
長距離砲がアーチを暑の影響で終盤に投

を通しゼロ。今年は6

がえた。

など打者の奮闘がうか

球を意識して振り込む

上二貫れ始め、氏江丁

8厘と昨年から2分1厘アップ。新基調バツ

大会打率も2割8分

た。

描き、会場を盛り上げ

【新田一松山学院】5回表松山学院の守り2死二塁、安打で生還を狙った走者を右翼・仲宗根が本塁へ好返球し、捕手伊藤(左)がタッチアウトにする
一坊ちゃんスタジアム(撮影・山内拓郎)



野手陣一丸 攻守でもり立て

エース佐藤の熱投に応えようと野手陣が強力にバックアップ。大差で敗れはしたが、攻守ともに盛り立てた。

7番中宗根は大会通算打率5割。「絶対につないで、できる限り佐藤を楽にしたかった」と決勝でも2安打をマーク。守備では五回に右翼として好返球し、追加点を防いだ。

大会を通して無失策だった遊撃奥村も決勝で強打を処理。「佐藤の球威に負けた打球が来た。予測通り。佐藤じゃなかったら抜かれる当たりだっ

た」と胸を張った。

ベンチ入り17人という少数で鮮烈な印象を残した松山学院の今後は厳しい。3年生が抜けると、1、2年生は計5人。阿保監督によると連合チームに入らず、新入生を迎える来春に単独校として再スタートを切るという。

当間主将は「人数が少ないので練習も限られる
と思うが、野球を楽しんでほしい。1人でも多く
の新生入生に入ってほしい」と後輩を思いやった。
(和田亮)

手の届かざる場面が散見された。夏の大会では初めて指名打者（DH）制を採用。投手の負担軽減となり、好打者の出場機会も拡大した。

連合チームの躍進も忘れてはならない。2018年大会の初出場以降、成し遂げられなかった夏の1勝を、今

治東・今治南・大三島・しまなみの今治4校連合が逆転サヨナラで歸ると、大洲・大洲農連合も勝利。県立高校の統合再編や少

大会を制した大本命の新田が下馬評通りの実力を発揮し、5年ぶりの甲子園切符をつかみ取った。ただ、残りのシード勢はいずれ

も4強入りでぎす。新田には野球王国復活のろしを上げてもらいたい。

(和田亮)

和田亮

5回の守備、ホームでタッチアウトを奪ったファインプレーを喜ぶ
松山学院の野球部OBら—26日午前、坊っちゃんスタジアム



進撃の松山学院 好プレーに沸く

少人数ながら進撃を続け、初の決勝進出を果たした松山学院。強豪校の大歓声に負けじと声援を送る三塁側スタンドには、この春卒業した野球部OBの姿もあつた。

大学生加治工希博さん(19)と専門学校生比嘉聖人さん(18)は沖繩から駆けつけた。「寮で一緒に過ごしたので、後輩というより仲間。絶対にスタンドで見届けたかった」と加治工さん。比嘉さんは「僕たちも一人が何十人分の声と力を出し

(森口睦月)

2点を追加するなど攻撃の手を緩めなかった。松山学院は春夏通じて初めての甲子園に一步届かなかった。

全国選手権は8月1日に組み合わせ抽選が行われ、5日に兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕する。

(和田亮)

2026.7.27

地軸

夏の坊っちゃんスタジアムで観戦するなら、日陰に限る。そう思いながらきのう、高校野球愛媛大会決勝戦に足を運んだところ、試合1時間ほど前から同じ考えのファンでいっぱい。さすがは一番澄み渡る青空と整備されたグラウンドとの対比が心地よい。高校で野球を終える愛媛のほとんどの球児にとって、やはりここは「聖地」なのだと思える。▲鍛え上げられたアスリートたちによる「神々の戦い」を思わせる甲子園大会も、もちろん手に汗を握る。ただ、それ以上に応援に力が入るのは、隣の高校生たち、近くの学校がひたむきに戦う愛媛大会だ。▲第1シードの新田が、初優勝を目指した松山学院を破った一戦は、激戦が続いた愛媛の夏の終幕にふさわしい、意地と意地とのぶつかり合いとなった。16安打12得点と攻め立てた新田に対し、松山学院も10安打を放ち、しぶとく食い下がった。

先発した新田・築山朔弥投手、松山学院・佐藤大翔投手は、疲れをものともせずそろって九回まで投げ切る気迫の投球だった。▲点差が開くことも、選手も観客も一球の行方に一喜一憂を繰り返す。試合が終わる頃には、日陰だった自席に太陽が差し込んでいた。「ひたすらなもの、美しい夏過ぐ」金子兜太▲敗れた学校では既に新チームが始動している。ここに帰ってくる頃には、どれほどの成長を遂げていることだろう。だから次の夏も、胸を膨らませながらスタンドに陣取る。

松山学院 夢届かず

絶対エース熱投 最後まで気持ち折れず



【新田—松山学院】先発し力投する松山学院・佐藤
—坊っちゃんスタジアム(撮影・門脇駿介)

味を覚えたが、長短計16安打を浴びた。その翌日の21日、愛媛県立松山高校で迎えた決勝の相手は県内最強の戦力を持つ新田打線となつて、厳しかった。1回まで三振と持ち

手の伊藤も、今までは一打たれても気持ち折れなかった。初戦の決勝進出でチームの歴史を塗り替えた立役者は、最後に最高のボールを投げつけた。5人の投手は、試合後の挨拶はすべしと乾き、達成感に満ちた表情で帰って

藤は非常に研究熱心。ボールが手から離れた瞬間、あれだけ打たれても気持ち折れなかった。

その後も指揮官は「佐と成長を遂げる」と、捕

選手よくやった

阿保監督の猛、力の差が出た。守備では初回から続けて先頭打者を出した。新田の打撃は想像以上に良かった。自分たちがエラーをしたが、相手の方が一枚も上手だった。大差となったが、選手はよくやったと思う。

悔いのない戦い

野村(決勝で安打1打点と奮闘)「今大会はよく、今日は「みんなのために」と打席に入、勝ちたいという気持ちが出た。最高のチームで目いっぱい戦って悔いはないが、監督を甲子園に連れて行きたかった」

束になれば強い

佐々木(今大会安打4打点で躍進)「二つの束になれば、より強い」と信じて、全員で日でも戦った。部員は少ないが甲子園の目の前まで行けることを証明した。5人の後輩には諦めず頑張ってもらいたい」

先輩の配慮感謝

吉田(2年生として先輩をフォロー)「5人の少ない後輩ではサポートが十分でなかったが、先輩は常に分けや手伝いをしてくれて、大きな背中を見られることが多く入った。これ(ことを)信じ、練習を続けた」

野球人生上出来

松田(準決勝で腕を痛めながらも出場)「途中交代に少し悔しさはあるが、決勝まで自分が思っていた以上にヒットを打って、打点も稼いだ。守備でも立ってられたと思う。高校で卒業する野球人生として上出来」

絆の強さは1位

本下(先頭打者で中前打を放つ)「強力な築山選手が相手。追い込まれる前に打ちたかった。最後の場面はベンチのみんなが「本下、頑張れ」と言い、本当にいい思い出。絆の強さは今大会1位だったと思う」

地軸

夏の坊っちゃんスタジアムで観戦するなら、日陰に限る。そう思いながらきのう、高校野球愛媛大会決勝戦に足を運んだところ、試合1時間ほど前から同じ考えのファンでいっぱい。さすがは一番澄み渡る青空と整備されたグラウンドとの対比が心地よい。高校で野球を終える愛媛のほとんどの球児にとって、やはりここは「聖地」なのだと思える。▲鍛え上げられたアスリートたちによる「神々の戦い」を思わせる甲子園大会も、もちろん手に汗を握る。ただ、それ以上に応援に力が入るのは、隣の高校生たち、近くの学校がひたむきに戦う愛媛大会だ。▲第1シードの新田が、初優勝を目指した松山学院を破った一戦は、激戦が続いた愛媛の夏の終幕にふさわしい、意地と意地とのぶつかり合いとなった。16安打12得点と攻め立てた新田に対し、松山学院も10安打を放ち、しぶとく食い下がった。

【松山北一松山学院】9回裏松山北無死一塁
内野安打で好機を拡大し雄たけびを上げる竹
内(中央)
― 坊っちゃんスタジアム(撮影・門屋駿介)

第108回全国高校野球選手権愛媛大会は24日、坊っちゃんスタジアムで新田一小松、松山北一松山学院の準決勝を行う。準々決勝までに第1シード・新田を除くシード3校が姿を消す混戦を勝ち抜くのはどのチームか。戦力を探る。
(織田龍郎)

高校野球愛媛大会きょう準決勝

小松 攻撃力と粘り強さも

投打で圧倒的な数字を残してきた大本命の新田に対し、甲子園出場経験がある強豪ひしめく激戦ブロックを勝ち抜いた小松が挑む。

新田は全3試合を七回コールド勝ち。チーム打率は4割5分9厘と4強中トップの破壊力を誇る。2回戦でランニング本塁打の田頭や1番酒井

によく当たりが出ていて、3回戦で5回を完璧に抑えたエース築山は準備も安定している。

小松は2戦連続コールド勝ちの攻撃力に加え、投手戦の準々決勝を勝ち切る粘り強さも備わった。徳山主将は二塁打3本と長打が出ている。3試合先発の有江は防御率1・17、与四死球5と安定。3試合救援の日野や下手投げの2年右腕亀井は失点していない。失策は1と守備も堅い。

新田	小松
31	得点 25
0.459	打率 0.333
14	長打 6
3	犠打 6
9	盗塁 3
1	失点 3
0.47	防御率 1.17
0	失策 1

新田 4強トップの破壊力

松山学院 左腕エース28奪三振

1回戦から4試合を勝ち上がった松山北と松山学院が顔を合わせる。32得点を記録する好調な松山北打線と、奪三振数を積み上げる松山学院の左腕の対決に注目が集まる。

ぐ集中力も見せた。投手は5人が登板。防御率0・69と安定する救援の上

直しも必須となる。松山学院のエース佐藤は3完投と1救援の27回1/3で28奪三振を記録した。準々決勝の西条戦は96球、被安打3でまとめている。8安打の1番木下は3回戦でランニング本塁打を決めた。7番仲宗根も7安打と好調を維持。13犠打を有効に生かす攻撃も光る。

松山北は打率3割1分5厘で上位から下位まで切れ目がない。準々決勝の松山商戦は単打をつな

松山北	松山学院
32	得点 28
0.315	打率 0.336
8	長打 9
9	犠打 13
12	盗塁 7
17	失点 11
3.25	防御率 2.57
6	失策 2

直しも必須となる。松山学院のエース佐藤は3完投と1救援の27回1/3で28奪三振を記録した。準々決勝の西条戦は96球、被安打3でまとめている。8安打の1番木下は3回戦でランニング本塁打を決めた。7番仲宗根も7安打と好調を維持。13犠打を有効に生かす攻撃も光る。

松山北 打線好調切れ目なく

きょうの試合

▽準々決勝
坊っちゃんスタジアム…
8・45 新田一小松
11・30 松山北一松山学院